

令和5年度

施政方針

宇治市長 松村 淳子

# 目 次

1. はじめに	1
2. 令和5年度予算編成の基本的な考え方	2
3. 物価高騰への緊急対応	3
4. 第6次総合計画のさらなる推進	
(1) 重点施策	
①WITHコロナ・POSTコロナ時代の安全・安心	3
②みんなで作る子育て・子育てにやさしい地域共生社会	6
③活力あふれる産業振興と未来への投資	11
(2) まちづくりの土台となる取組	
①市民等との連携・協働	13
②人に優しいデジタル化の推進	14
③持続可能な行財政運営に向けた取組	14
5. おわりに	14

## 1. はじめに

令和5年度当初予算及び諸議案のご提案にあたりまして、市政運営に臨みま  
す施政方針を申し上げます。

はじめに、この間、市民生活に大きな影響を及ぼしてきました新型コロナウイルス感染症につきましても、収束の糸口が見えつつあるとは言えるものの、引き続き警戒が必要な状況にあります。市民や事業者の皆様におかれては、感染拡大防止対策にご理解とご協力をいただいていることに厚く御礼を申し上げますとともに、昼夜を分かたず最前線でご尽力をいただいております医療従事者の方々や介護・保育等の福祉等従事者の皆様に、改めて深く敬意を表し、感謝を申し上げます。

現在、宇治市の状況としましては、新型コロナウイルス感染症の克服が現在進行形の課題であることに加え、世界情勢の影響を受け、物価高騰に拍車がかかり、市民生活にも甚大な影響が生じております。さらに、人口減少・少子高齢化の進行や地域コミュニティの希薄化など、様々な課題が山積しており、私たちを取り巻く状況はより一層深刻なものとなっております。

一方で、「源氏物語」を生んだ紫式部を描く大河ドラマの放送、文化庁の京都移転をはじめ、新名神高速道路の開通や大阪・関西万博の開催など、地域の活力を取り戻すとともに、宇治のさらなる発展につながるチャンスも訪れようとしております。

私は、市長に就任して以来、安心・躍動・再スタートを基本理念に、まずは、市民の安全・安心を第一に、直面する喫緊の課題であります新型コロナウイルス感染症への対策に万全を期すとともに、誰ひとり取り残さない、宇治のまちのさらなる発展のため、子育てにやさしいまちづくりや将来を見据えたまちの発展の基盤づくりなどに取り組むなど、日々、全力で市政の運営にあたってまいりました。

また、市民の皆様、関係団体の方々と、魅力ある宇治のまちを築いてまいりたいとの強い思いから、できる限り多くの方々との対話を重ねるとともに、現地現場に赴く中で、宇治市の魅力や抱える課題の把握にも努めてきたところでございます。

令和4年度には、市政運営の基本方針である宇治市第6次総合計画を策定し、目指す都市像の実現に向け、組織横断的に取り組む施策にスピード感を持って

対応するため、新たにプロジェクトチームを設置するなど、これまで以上に組織間の連携を強化し、様々な取組を進めております。

さらに、国の方針では、この春に、新型コロナウイルスを現在の「2類相当」から季節性インフルエンザと同等の「5類感染症」へと移行を予定されるなど、いよいよPOSTコロナ時代に向けた動きが感じられるようになってまいりました。

こうした中、宇治市においても、まさに大きな転換期を迎える中で、誰ひとり取り残さない、さらなる宇治の発展のため、目指す都市像である「一人ひとりが輝き 伝統と新たな息吹を紡ぐまち・宇治」をつくってまいりたい、この決意のもと、これまでの取組をさらに推し進め、POSTコロナという新しい時代にふさわしい宇治のまちづくりを進めていくための令和5年度当初予算を編成いたしました。

引き続き、市民の皆様や関係団体の皆様とともに、また、企業、大学など様々な主体との連携を一層深めるとともに、誇れる宇治のまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

## 2. 令和5年度予算編成の基本的な考え方

令和5年度は、宇治市第6次総合計画の2年目の年度となります。令和5年度予算は、市民生活や市内経済のさらなる活性化に向け、POSTコロナ時代への移行を念頭におきながら積極的な施策展開を進めてまいります。

こうした考えのもとで、物価高騰や新型コロナウイルス感染症対策など喫緊の課題に的確に対応しながら、第1期中期計画期間中に特に力を入れて取り組む3つの重点施策を積極的に推進してまいります。さらに、市民協働・市民参画やデジタル化の推進など、今後のまちづくりに際しての、土台となる取組につきましても、全庁を挙げて着実に進めてまいります。

### 【3つの重点施策】

- ① WITHコロナ・POSTコロナ時代の安全・安心
- ② みんなでつくる子育て・子育てにやさしい地域共生社会
- ③ 活力あふれる産業振興と未来への投資

### 【まちづくりの土台となる取組】

- ① 市民等との連携・協働

- ② 人に優しいデジタル化の推進
- ③ 持続可能な行財政運営に向けた取組

令和5年度の予算につきましては、令和4年度と同様、国の経済対策を活用した令和4年度3月補正予算とあわせた13か月予算として切れ目のない予算を編成することとし、過去最大規模となる総額、約684億円による、「人と地域が輝き躍動する積極予算」として編成いたしました。

### 3. 物価高騰への緊急対応

依然として続く物価高騰への対応につきましては、国の動向等を見定める中で、宇治市としましても、現在の状況が市民生活に大きな影響を及ぼしていることを踏まえ、市民の皆様や事業者の皆様に対し、適切な支援等を行ってまいりたいと考えております。

現在取り組んでおります水道事業においては、一般会計から水道事業会計への支援により、引き続き、基本料金等の減免を実施し、市民生活等への支援に取り組んでまいります。また、食材が高騰していることから、小学生の保護者の皆様の負担を軽減するため、学校給食費の値上げ抑制対策についても、継続してまいります。

### 4. 第6次総合計画のさらなる推進

#### (1) 重点施策

令和4年度より始動いたしました、第6次総合計画のさらなる推進に向け、第1期中期計画期間中に、特に力を入れて、部局横断的に全庁挙げて取り組む3つの重点施策について、令和5年度の具体的な事業展開をご説明申し上げます。

#### ① WITHコロナ・POSTコロナ時代の安全・安心

社会情勢の変化を的確に捉える中で、あらゆる状況下においても市民生活の安全・安心を重要課題に捉え、POSTコロナ時代に向けた安全・安心なまちづくりを進めてまいります。

### **（新たな時代に輝く宇治の観光まちづくり）**

POSTコロナ時代においても戦略的な観光施策を展開し、観光を通して宇治のまちが輝き、豊かになることを目指し、この4月からスタートします第2期宇治市観光振興計画に基づき、今後予定される大河ドラマの放送やJR奈良線第二期複線化開業、新名神高速道路の開通、大阪・関西万博の開催など、広域的な新たな交流の機会を捉え、多様な地域や主体と連携し、周遊・滞在型の観光を推進してまいります。

特に、大河ドラマの放送を契機に源氏物語及び紫式部ゆかりの地である、宇治の歴史・文化・観光の魅力を市内外に発信するプロジェクトを進めるため、宇治を訪れた方に、平安時代の宇治の歴史・文化や源氏物語の世界を体感していただく取組や、源氏物語及び紫式部のゆかりの地である大津市・越前市等と連携し、広域的な情報発信・誘客促進等を進めます。

また、宇治川周辺と天ヶ瀬ダムの活用を推進するための地元協議会の設立及び沿川市町と連携した水上アクティビティなどの水辺のにぎわいづくりの取組など、新たな観光コンテンツの開発を進め、宇治独自の強みを活かした観光振興に積極的に取り組み、宇治市の魅力を再発信いたします。

加えて、鶺鴒を文化として保存・伝承し、発展させるため、全国鶺鴒サミット宇治大会を開催するとともに、「お茶と宇治のまち歴史公園」を市内観光の拠点、「お茶の京都エリア」の玄関口として活用するほか、インバウンドの回復を見据え、観光案内所や観光センターに多言語対応を行うタブレット端末を配置するなど、安心して観光地を訪れていただけるよう、案内機能の強化を図ります。

### **（地域でつくる安全・安心のまち）**

災害や身近に起こる犯罪などから市民の命を守るため、市民一人ひとりの防災意識の向上や、地域で見守る安全・安心なまちづくりを目指してまいります。

まず、防災の分野では、昭和28年の南山城水害から70年、平成24年の京都府南部地域豪雨災害から10年が経過する中で、さらなる地域の防災意識向上のため、自主防災リーダーの協力を得て、浸水想定区域にある地域の自主的な避難行動につながる「災害時地域タイムライン」の作成を進めます。また、京都大学防災研究所の人材や知見を活用し、親子で学ぶシンポジウムを開催するなど、地域防災力のさらなる向上に努めてまいります。

防犯の分野では、これまで積み重ねてまいりました、市民一人ひとりが「地域の安全は地域で守る」という意識での防犯活動のさらなる推進に向け、小学校区において防犯ボランティアによる自主的な活動を促進するとともに、市民や事業者による「ながら」防犯パトロール等の防犯活動の担い手を増やす取組や防犯カメラ等の環境整備の拡充により、防犯意識の醸成と地域防犯力の向上を図ります。

また、近年の気候変動や自然災害の要因の一つである地球温暖化への対策につきましては、令和4年3月に「市民と築くゼロカーボン宣言」を行い、「ゼロカーボンシティ」の実現に向けて取り組んでまいりました。

令和5年度におきましては、保育所・幼稚園・小学校等に加え、中学校への出前講座や実演などを行う環境教育を充実させるとともに、小学5、6年生の親子を対象に先進施設等の視察で学ぶ「親子で学ぶゼロカーボンツアー」の実施など、就学前から中学生の世代が2050年に向けて脱炭素の推進に向け、活躍できる土壌をつくってまいりたいと考えております。

加えて、今後策定する宇治市地球温暖化対策地域推進計画、宇治市地球温暖化対策実行計画において、これからの道筋を明らかにし、市民、事業者、行政が一丸となって、地球温暖化対策に取り組んでまいります。

### **(災害に強いまちづくり)**

様々な災害が広域化・激甚化・頻発化している中、市民を災害から守り、安心して暮らせる環境をつくるため、災害等に備えた計画的なインフラ整備や消防力等の充実強化を図り、災害に強いまちづくりを目指してまいります。

まず、自然災害に備えた治水対策といたしまして、一級河川等の未改修区間の早期改修及び排水機場の改良に向け、引き続き、国・京都府と連携を図るとともに、宇治市が管理する河川・排水路についても、計画的な改良や適正な維持管理に努め、浸水対策等を進めてまいります。

さらに、市道菟道榎島線の橋梁の一つである宇治川橋の耐震化等、大規模災害時における救助・救援、復旧活動を支える役割を担う道路等につきましては、計画的・効果的な維持管理に努めます。

また、市民生活を支えるライフラインの要となる水道施設につきましても、災害時にも安定した給水を確保するため、老朽化への対応をはじめ、耐震化・更新整備等を計画的に進めてまいります。

減災の観点では、黄檗公園において、災害発生時の防災拠点としての役割を担えるよう、避難路となる園路改修等を進めるとともに、個人の住宅や多くの方が利用する大規模建築物の耐震化の支援を進めるなど、災害に強い安全・安心のまちづくりを推進してまいります。

消防・救急につきましては、地域防災力の向上を図るため、池尾消防団器具庫の建替えを行うとともに、災害対応力の強化に向けては、消防ポンプ自動車や高規格救急自動車の更新整備、また、自動心臓マッサージ器の計画的な導入に新たに取り組むなど、感染症への対応も含めた救急救命体制の充実を図ってまいります。

さらには、消防力向上のため、京都府南部地域の9消防本部（16市町村）で連携協力し、消防指令業務の共同運用実現に向けた取組を進めますとともに、現行の消防指令システム等の適正な維持管理に努め、市民が安心して暮らせるまちを目指してまいります。

### **（新型コロナウイルス感染症の拡大防止）**

また、新型コロナウイルス感染症対策といたしまして、引き続き基本的な感染拡大防止対策についての周知・啓発を図るとともに、新型コロナウイルスワクチンについて、国や京都府、医師会などと連携しながら、当面の接種体制を維持し、ワクチン接種の有効性やリスクなどに関する情報提供を行うことで、安心して接種をしていただけるよう、着実に取り組んでまいります。

## **② みんなでつくる子育て・子育てにやさしい地域共生社会**

一人ひとりの子どもの特性や状況などに応じた切れ目のないきめ細やかな支援や教育環境を充実させるとともに、人や地域などの様々な主体がつながり、地域や社会で支えあう子育て・子育てにやさしいまちづくりを進めてまいります。

### **（子育て・子育て環境の充実）**

子育て世代の希望をかなえ、安心して子どもを産み育てられるまちをつくるため、地域で子育てを支える仕組みづくりや、子ども達が健やかに育つ環境づくりを進めてまいります。

まずは、令和3年度より、取り組んでおります「子育てにやさしいまち実現プロジェクト」につきまして、令和5年度においては、中宇治地域に加え、新たに、木幡・黄檗地域及び小倉地域において、それぞれの地域特性を活かした

プロジェクトを展開してまいります。

子育て世帯が外出しやすい環境整備や、地域で子どもの育ちを支援する機運の醸成、子どもが多様な働き方を体験できる機会や伝統産業に触れる機会の創出など、これまでの成果を活かした取組を、継続・発展的に進めるため、スポーツや食育など、新たな観点からの市民協働による子育ての場の創出や、幼少期・学齢期からの体験型の学習機会の創出など、地域活動の核となるキーパーソンの方とともに、地域の特性を活かした新たな取組も展開してまいります。

さらに、妊娠から出産・子育てまで切れ目のないサポート体制を強化するため、産後ケア事業の利用日数の拡充など、多胎児の保護者負担の軽減を図るとともに、すべての妊婦・子育て家庭が安心して出産・子育てができるよう、妊娠届出時、妊娠8か月時及び出生後に助産師等による面談など伴走型相談支援や、出産育児関連用品や産後ケアなど子育て支援サービスが利用できる電子カタログなどニーズに応じた支援を実施してまいります。

また、食事や生活環境が不適切な状態にある家庭や、特に支援が必要な妊婦のいる家庭、ヤングケアラーのいる家庭などに対する、家事・育児等への支援や助言など、家庭に寄り添い、子どもが健やかに成長できる環境づくりに取り組んでまいります。

保育所の待機児童につきましては、保護者ニーズを見極めながら待機児童ゼロを維持してまいりますとともに、配慮を要する子どもへの保育所等における支援の充実を図るなど、日常的な保育・教育の質の向上に取り組んでまいります。

乳幼児期は、その生涯にわたる人間形成の基礎を培い、生きる力を養う極めて重要な時期であることから、将来を担うすべての子ども達が健やかに成長できるよう、乳幼児期の教育・保育の一層の充実を図るため、(仮称)宇治市乳幼児教育・保育支援センターにおいて取り組む3つの柱である「保幼小連携」、「発達・子育て支援」及び「研究・研修」について、有識者等の専門的な知見に基づく助言を受けながら、関係機関が常に連携、協働した取組を推進していくため、令和5年度より乳幼児教育・保育支援センター準備室を立ち上げ、保育士等の人材育成を通じた教育・保育環境の充実を図ってまいります。

### **(子ども達の学びをはぐくむ教育の推進)**

子どもが育つ環境づくりに向けましては、「教育環境日本一」を掲げる京都府との連携を強め、第2次宇治市教育振興基本計画の教育理念である「家庭・学

校・地域でささえる宇治のひとづくり・まちづくり」に基づき、教育・福祉がより一層連携した取組を進めてまいります。

乳幼児教育・保育と小学校教育との円滑な接続を図りつつ、小中一貫教育を柱とした義務教育9年間を見通した系統的・継続的な学習指導や生徒指導を行い、確かな学力を身につけるとともに、豊かな人間性を育てまいります。

なかでも、市独自の学力調査の低学年からの実施により、基礎学力の定着と家庭での学習習慣の確立に向けた取組を進め、子ども一人ひとりの学習を充実させることで、学力向上を図るとともに、無線転送機能を備えた大型テレビを導入し、よりスムーズにICTを活用できる学習環境を構築し、ICT教育を充実することで、子ども達の資質・能力の育成を図ってまいります。

さらに、障害のある子ども一人ひとりが安心して地域の学校に通い、共に学ぶことができる環境づくりと支援の充実を図るため、通常学級、特別支援学級と通級指導教室のどの場においても、きめ細やかな支援が受けられる体制づくりを行うとともに、教員の専門性を高め、支援の充実を図ってまいります。

加えて、中学校においては、子ども達が様々なスポーツや文化に触れる事ができる充実した部活動環境の構築を目指すため、休日部活動に地域人材を活用した部活動指導員を配置します。

不登校児童生徒につきましては、社会的自立のため、一人ひとりの児童生徒の状況に応じた学習プログラムの設定など必要な支援に努めるとともに、家庭教育アドバイザーを研究指定校に配置し、教育・福祉部局や関係機関と連携した取組を推進してまいります。

また、複雑化・多様化しております、児童生徒が抱える様々な課題に対し、家庭・学校・地域が一体となって子ども達を育むため、学校運営協議会と地域学校協働活動を一体的に行うコミュニティ・スクールをさらに推進してまいります。

学校施設につきましては、中長期的な視点に立ち、40年後を見据えた施設の長寿命化に取り組むとともに、(仮称)西小倉地域小中一貫校整備については、これまでの宇治市における小中一貫教育の成果を活かしながら、西小倉地域の子ども達が学年を超えて学び合い、成長するとともに学校から地域、世界へと関心を広げていける学び舎を目指して、令和8年度の開校に向け、令和5年度から本体工事を着手するなど、宇治市で2校目となる施設一体型小中一貫校の整備に取り組んでまいります。

また、西小倉地域の3つの小学校の跡地活用につきまして、地域や宇治の将来を見据えた活用の手法について、様々なご意見をお聞きする中で、地域の皆様とともに検討を進めてまいりたいと考えております。

中学校給食につきましては、現在、給食センター用地として、宇治少年院跡地の取得に向けまして国と調整を進めており、整い次第速やかに、用地購入及び整備に着手できるよう用地購入費及びDB方式による整備に要する経費を計上しており、令和8年度の早期の実施を目指し、全力で取り組んでまいります。

### **（誰もがいきいきと暮らせる社会の実現）**

心身の健康を保ち、生涯にわたって健康に過ごせるよう、市民の主体的な健康づくり活動への支援など、誰もが自分らしく、健康で元気に暮らせる社会の実現を目指してまいります。

健康づくりの推進につきましては、ライフステージに応じた健康づくりのため、市全体や日常生活圏域単位での健康データを活用した地域分析を行い、地域ごとの課題を明確にし、健康づくりを推進するとともに、健康づくり・食育アライアンス等の自主活動グループの支援など、市民と地域、行政が一体となって健康づくりを進めていけるよう、地域活動等の活性化を図ってまいります。

国民健康保険事業につきましては、被保険者の皆様が健康な毎日を過ごしていただけるよう、その基礎となる特定健康診査やがん検診の受診率向上及び特定保健指導の実施率向上に向けて積極的に取り組むとともに、人間ドック・脳ドック受診者の増加にも取り組んでまいります。また、糖尿病性腎症重症化予防事業においては、かかりつけ医と連携してサポートする取組を実施するなど、被保険者の生活の質の維持・向上、一層の健康増進を図ってまいります。

介護予防施策、介護保険事業におきましては、高齢者の方々が住み慣れた地域で、安心してその人らしく暮らせるよう、2040年を見据えて、宇治市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画の策定に取り組むとともに、地域包括支援センターの体制強化をはじめ、保健師等の専門職による医療機関への受診勧奨や健康教育の実施など、地域での活動を継続するための支援を行います。

### **（誰もが住みやすい地域共生社会）**

誰もが住みやすいまちをつくるため、地域全体で支える体制を構築し、人と

人、人と地域等が世代を超えてつながり、互いの価値観を共に認め合い、支え合うまちを目指してまいります。

誰もが住みやすい地域共生社会の実現に向けては、地域の関係者が一体となって地域課題の解決に取り組むことが重要であり、これまでの取組によって、そうした機運の醸成に徐々につながっており、引き続き、町内会・自治会活動をはじめ、防災、福祉など様々な活動に取り組む組織・団体を支援するとともに、地域のつながりや交流を促進するなど、地域主体の様々な活動を積極的に支援してまいります。

さらに、第3期宇治市地域福祉計画に基づき、安心して暮らせる地域共生社会の実現を目指すため、地域福祉の担い手である住民等と連携・協働しながらその推進を図るとともに、視覚障害者または文字による情報の取得が困難な市民の社会参加の促進を図るため、音声による市政情報の発信を図ってまいります。

スポーツを通じた人と人とのつながりやまちづくりを進めるため、Uji子どもスポーツフェスタや多世代交流スポーツフェスタなど、関係団体等と連携したスポーツによる多世代の交流や運動機会を創出するとともに、2027年に関西で開催予定のワールドマスターズゲームズの機運を高めるため、「フライングディスクのまち宇治」の取組として、市内小中学校や地域体育振興会に加え、市内企業等において、フライングディスクの普及啓発を図ってまいります。

一人ひとりが生涯にわたって学び続け、その成果を社会に活かすことができるよう、図書館の非来館型サービスの充実や電子図書館学校連携事業の推進、野外活動センター等の公共施設における読書コーナーの充実、様々な世代に対する多様な学習機会の提供などにより市民の読書や学習活動を支援します。

「宇治」は古代より現在に至るまで、各時代の歴史・文化が重なりあう特徴的なまちが形成されており、宇治市歴史的風致維持向上計画に基づき、宇治の歴史・文化に市民が愛着を持っていただくよう取り組むとともに、近畿の歴史的風致維持向上計画を策定した自治体による「近畿歴史まちづくりサミット」を宇治市で開催し、歴史まちづくりの機運を高めてまいります。

交通事故の防止に向けた取組として、誰もが住みやすいまちにするため、子

どもや高齢者などへの交通安全教育や啓発活動などを関係機関と協力して実施し、交通安全対策の強化に取り組むとともに、都市基盤整備の推進のため、JR六地蔵駅やJR黄檗駅、近鉄小倉駅周辺など、多くの人が利用する駅やその周辺の一体的な整備を進めます。

さらに、高齢者の方を対象として、榎島町紫ヶ丘地域で病院送迎車両を活用した買物支援の実証運行を始めるなど、地域の実情にあった移動手段の確立に向けた取組を進めます。

### **（文化芸術がつむぐまちづくり）**

文化を通じた生きがいがづくり、人と人のつながり、地域の絆づくりによる地域共生社会の実現を目指し、市民と文化芸術をつなぐ文化芸術団体等による地域連携や文化芸術活動の担い手・支え手の確保・育成にかかる取組を支援するとともに、子どもから大人まで楽しみながら平安時代の文化に触れる体験講座の開催などにより、紫式部ゆかりのまち宇治魅力発信プロジェクトをはじめとする文化の魅力の浸透・定着を図ります。

さらに、文化庁京都移転を契機とした新たな文化施策の展開に向けて、京都府と連携した文化イベントに取り組むことで、京都・宇治の文化を発信するとともに、高校生を中心とした若者の文化芸術活動の活性化を図るなど、様々な世代に対し、文化意識の醸成を図る取組を進めます。

また、源氏物語ミュージアムでは、令和6年大河ドラマの放送を契機に、より深く源氏物語の世界を知ることができる特別企画展を開催し、さらなる来館者誘致に努めてまいります。

## **③ 活力あふれる産業振興と未来への投資**

将来にわたって持続発展できるまちをつくるため、地域資源を活かした市内産業の振興や地域の特性を活かした都市基盤整備など、活力あふれる産業振興と未来への投資により、市民や地域生活を支えるまちづくりを進めてまいります。

### **（活力あふれる産業振興）**

産業振興につきましては、『宇治市産業戦略 改訂版』に盛り込んだ各種施策を精力的に取り組んでまいります。

市内の中小企業等が、物価高騰等によるコスト増を吸収できる経営力・生産性の向上のために行う設備投資等を支援し、企業の成長を促進するとともに、依然として厳しい状況が続いている市内製造業の人材確保を支援するため、企業

紹介動画を作成し、企業及び事業の認知度向上につながる取組、さらには、産業交流拠点「うじらぼ」を中心に、交流・連携の強化を加速させる取組を進め、市内経済の活性化に取り組んでまいります。

加えて、重点課題として位置付けている新たな工業用地の確保につきましては、引き続き、国道24号沿道地区での円滑な産業立地の実現に向けた取組を推進してまいります。

また、雇用の側面においては、生活困窮者やひきこもりの方などに対して、就労支援事業や就労準備支援事業などの支援に取り組むとともに、障害者の就労意欲を後押しするため、関係機関と連携した就労支援の体制確保に加え、優先調達や工賃向上に取り組んでまいります。

### **（農業を支える取組の推進）**

農業の振興は、将来にわたる宇治の発展にとって極めて重要な課題であり、その持続的な発展に向けて「人を支える」「農地をつなぐ」「持続可能な農業経営・新たなチャレンジを支援する」「茶業の継承・発展を支援する」「情報を発信する」の5本柱のもと、茶業をはじめ、米や野菜などの農業振興を積極的に推進してまいります。

具体的には、農業の労働者確保のため、労働環境整備に取り組む農業者への支援など、生産活動の根幹となる農業従事者を支えるとともに、将来を見据えた地域農業のあり方や農地利用の姿を明確化した農地利用地域計画の策定に取り組めます。また、農業経営基盤の安定化や農業者の負担軽減を図り規模拡大を目指す取組を進めることで、農業者の新たなチャレンジを積極的に支援し、都市近郊の利点を活かした生産振興、販路拡大、産地力の向上を目指してまいります。

さらに市内に、「宇治茶ブランド強化推進プロジェクトチーム」を新たに設置し、宇治茶の歴史や伝統を守り、さらに発展させるため、高品質な市内産宇治茶の生産支援や魅力発信に全庁を挙げて取り組み、市内産宇治茶ブランドの強化を進めてまいります。

### **（地域特性を活かした都市基盤整備の推進）**

生活の利便性や安全性の向上に向け、地域特性を活かした駅周辺の道路整備など、未来の宇治市の発展につながる都市基盤整備により、地域の活性化を図ってまいります。

まちづくりの拠点となる駅前周辺整備につきましては、近鉄小倉駅周辺地区まちづくり基本構想の実現方策等を示す基本計画の策定を進めるとともに、駅西口の歩道及び駅前広場などの暫定整備や自転車等駐車場の整備に取り組みます。

また、JR六地蔵駅周辺につきましては、JR六地蔵駅舎の移設を受け、駅前広場や自転車等駐車場の整備を進めるとともに、イトーヨーカ堂六地蔵店跡地における民間開発事業と連携して、自転車・歩行者専用道路やサポート道路などの整備を進めます。

新名神高速道路の開通は、ヒト・モノの新たな流れが生まれ、観光や工業、商業など多岐に渡っての波及効果をもたらすことが期待されますことから、宇治市第6次総合計画に盛り込んでいる構想路線をはじめとした、まちの発展につながる広域的な道路ネットワークの強化や交通渋滞の緩和及び防災機能の向上に向けた取組を、国、京都府と連携しながら進めてまいります。

とりわけ、中宇治周辺地域につきましては、新名神高速道路の開通も見据えつつ、中枢拠点にふさわしいまちづくりに向けて検討を進めるとともに、市道宇治白川線の交差点改良による交通渋滞対策の取組を進めます。

今後、人口減少が進む中、将来の市民の皆様にも、今ある住みよい環境の中で暮らしていただけるよう、宇治市都市計画マスタープランをより具体的に進めるためのアクションプランである「(仮称)宇治市未来につなぐ都市づくりプラン」の策定に取り組んでまいります。

## (2) まちづくりの土台となる取組

### ① 市民等との連携・協働

市民協働のまちづくりを進めるため、地域活動の中心的な役割を担う人材の確保をはじめ、地域活動の基盤づくりを支援するとともに、地域福祉の向上や防災・防犯など、安全・安心で住みやすい地域づくりに向けた多様な課題に対応するため、課題解決に取り組まれている事例などの情報提供、多様な主体が連携・協働できる仕組みづくりなど、部局横断に連携しながら、市民活動をしつかりサポートする取組を推進してまいります。

また、コミュニティセンターや集会所をはじめとする公共施設の利用促進に加え、民間施設などに創出した交流空間を活用し、人と人との交流を通じた地域コミュニティの活性化を図ります。

さらに、公共施設の将来ビジョンをしっかりと持つ中で、中宇治地域における市民協働の拠点となる公共施設の整備を検討してまいります。

## ② 人に優しいデジタル化の推進

デジタル技術の活用による様々な選択肢を用意することで、一人ひとりがニーズに合ったサービスを選び、多様な幸せが実現できる「人に優しいデジタル社会の推進」に取り組むとともに、職員は職員でしかできない業務に特化することで、人口減少・高齢化の進行に対処し、市民サービスを含めた自治体としての機能の維持・向上を図ってまいります。

なかでも、マイナンバーカードを利用したコンビニ交付サービスにつきまして、住民票の写し及び印鑑登録証明書を令和5年度中に提供できるよう整備を進めるとともに、引き続き、デジタル社会の基盤となるマイナンバーカードの普及を促進するため、申請サポートを実施いたします。

## ③ 持続可能な行財政運営に向けた取組

公共施設については、老朽化や市民ニーズの変化に伴う低稼働率が課題となる中、長期的な施設の維持管理コストの縮減に向け、予防保全を計画的に進め長寿命化を図ってまいります。

また、市民サービスの向上及び水道事業経営の効率化を図るため、上下水道部にかかる営業業務を、現在の検針業務に加え、窓口受付業務等についても、民間委託拡大に取り組みます。

## 5. おわりに

私はこれからの宇治市の輝かしい未来をつくる、責任ある立場としまして、市民の皆様の希望や想いを受け取り、POSTコロナ時代に向けた様々な施策の展開に果敢にチャレンジしていく所存であります。

人口減少・少子高齢化の進行や新型コロナウイルス感染症、物価高騰など、宇治市を取り巻く社会経済情勢は依然として厳しい状況にありますが、誇れる宇治市を次世代に残せますよう、私を先頭に、職員一同全力を挙げて「人と地域が輝き躍動する積極予算」に盛り込んだ施策を積極的に進めてまいりますので、市民の皆様、関係団体の皆様、議員各位のなご一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

